

平成26年度 事業報告書

一般財団法人 高度技術社会推進協会

平成26年度 事業報告書

(平成26年4月1日から平成27年3月31日)

I. 概況

当協会（TEPIA）は、資産運用の利回り低下等の厳しい運用環境が継続する中、国際経済や為替変動等の運用リスクを注視しながら、適切なポートフォリオによる柔軟な資産運用を行った。その結果、平成26年度は、予算を上回る収入を確保するとともに、今後の為替や金利の変動による資産運用収入の大幅な減少及び築26年を経過した建物の大規模修繕実施等の出費に備え、着実に減価償却積立等資産の積立を実行し、協会の財政基盤の安定化を図ることができた。

このような中、引き続き経費の節減に努めつつ、非収益事業については、社会的な重要課題の解決や高度技術社会の推進につながる先端的産業技術等の一般社会への普及啓発を積極的に行うため、必要性の高い事業への予算の重点化、社会ニーズ・事業実施結果等を踏まえた事業内容の柔軟な見直し、事業ノウハウの蓄積等に努めながら、事業を推進した。特に、中核的事業であるTEPIA先端技術館については、展示内容を全面的に刷新し、小中高校生を主たるターゲットとする体験型の展示館にリニューアルした。

一方、収益事業である施設賃貸事業については、2階レストランを新規に誘致し、会議施設を利用する顧客へのサービスの向上を図るとともに、顧客ニーズに対応した柔軟かつ機動的な営業施策を講じることにより、利用者の満足度向上や新規顧客の獲得を図り、一層の利用拡大に努めた。

なお、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催後の神宮外苑地区整備計画に関しては、東京都、関係地権者等の動向を踏まえつつ、引き続き、TEPIAとして必要な対応を行った。

その他の事業も含め、平成26年度に実施した事業の主な内容は、以下のとおりである。

Ⅱ. 実施事業の具体的な内容

1. 展示事業

TEPIA先端技術館において実施する展示事業は、わが国の最新技術や先端的製品を社会の諸課題と関連付けて解り易く紹介するTEPIAの情報発信の中核的的事业である。

平成26年度は、TEPIA先端技術館の展示内容を全面的に刷新し、展示内容の充実を図りつつ、わが国の次世代を担う中高生等の若者をメインターゲットとする展示を行った。また、年度後半からは、平成27年度の展示実施に向け、展示内容の見直し・リニューアル作業を実施した。

(1) 平成26年度展示運営

平成26年度の展示では、全面的に内容を刷新し、「体感しよう！未来を拓く先端技術」というキャッチフレーズのもとで、「10年後の未来をデザインする先端技術」というテーマ設定で、以下のような展示事業を実施した。

今次の全面的なリニューアルにあたっては、インタラクティブな展示手法、体験型の展示手法を導入するとともに、ワークショップ（実験教室）を常設する等、小中高校生を主たるターゲットとした体験型の展示館として開館した。

イ. 常設展示

【開催期間】 平成26年4月22日～平成27年3月8日
(計269日)

【入場者数合計】 41,525名(内外国人1,570名)

【展示数】 61品目

【展示内容】

① エントランス展示 (展示数 3品目)

大画面4Kテレビ、顔認証による性別・年齢分析技術、特殊な透過ガラスを使用したミラーサイネージ等の展示を実施。

②テクノロジーパスウェイ（展示数 6品目）

技術はどんな足跡をたどり、現在の先端技術として確立されてきたのか、ICTにスポットをあて、その変遷を追うことができる展示を実施。

③テクノロジーショーケース（展示数 32品目）

私たちをとりまく社会ではどんな新しい技術が生まれているのかということについて、以下の5つの観点で展示を行った。なお、AR（拡張現実技術）や音声ガイドの導入によるアクティブな展示演出を導入した。

- ・健康にくらす(ヘルスケア) 展示数6品目
- ・生活をかえる(ライフスタイル) 展示数6品目
- ・世界とつながる(ICT) 展示数5品目
- ・社会をまもる(セキュリティ) 展示数6品目
- ・地球とともに(エネルギー) 展示数9品目

④テクノロジースタジオ（展示数 20品目）

「ちょっと未来」のくらしや社会に、技術はどんな製品やサービスとなって入り込むのかということを実感できる展示を実施。

⑤テクノロジー・ラボ

先端技術の原理を体験・理解するためのワークショップとして、DNA、風力発電、ミドリムシに関する実験、観察等を実施した。

ロ. トピックス展示

TEPIA先端技術館では、特定非営利活動法人キッズデザイン協議会が毎年実施する「キッズデザイン賞表彰」（後援：経済産業省）の受賞作品をトピックス展示として展示している。平成26年度は、「2014年度キッズデザイン受賞作品」の中から選定し、TEPIA賞を授与したもののほか計5点を展示した。

【展示期間】平成26年12月2日～平成27年3月8日(計76日)

【展示数】 5品目

【展示内容】

- ・ T E P I A 特別賞
 (株)学研ステイフル『ワールドアイ』
- ・ 優秀賞〔経済産業大臣賞〕
 (株)学研教育出版『ほんとのおおきさシリーズ』
- ・ 奨励賞〔キッズデザイン協議会会長賞〕
 パナソニック(株)『文教用デジタルビデオカメラHC-BKK1
 ぼうけんくん』
- ・ 審査委員長特別賞
 (株)千趣会『20年分のバースデーカード』
- ・ 審査委員長特別賞
 パナソニック(株)『電池がどれでもライト』

ハ. 展示関連イベント

日本の未来を担う10代の子供たちのTEPIA先端技術館への来館を促進するなどのため、以下のようなイベントを実施した。

① ゴールデンウイークイベント

【実施期間】平成26年4月26日、27日、29日、5月3日～6日(計7日)

【実施内容】

- ・ 展示品に関するクイズラリーを実施。(参加者983名)
- ・ オルゴール及びDNAアクセサリ工作教室を実施。
(参加者325名)

② 夏休みサイエンスフェスタ

【実施期間】平成26年7月19日～8月31日(計38日)

【実施内容】

- ・ 展示品に関するクイズラリーを実施。(参加者941名)
- ・ 特別ワークショップを以下の6テーマで実施。
 - ー音センサーロボットをつくろう(7月30日 参加者13名)
 - ーパイプシロフォンをつくろう(8月1日 参加者19名)

- ーオリジナル電気自動車をつくろう(8月5日 参加者38名)
- ー風の力で動き出すロボットをつくろう(8月8日 参加者38名)
- ー21世紀型ベーゴマ「かわむらのコマ」をつくろう
(8月20日 参加者30名)
- ー次世代バイオ燃料電池をつくろう(8月22日 参加者18名)
- ・巨大骨格ロボット”スケルトニクス”ショー
スケルトニクス(株)が開発した巨大骨格ロボットについてのサイエンスショーを開催。
(8月7日 参加者189名)

③TEPIAスポテ祭

「スポーツを支えるテクノロジーで、健康で快適な暮らしを！」をテーマに様々な期間限定の展示を行うとともに、以下のようなイベントを実施した。

【実施期間】平成26年10月11日～11月3日(計21日)

○講演会

- ・開催日：平成26年10月11日11時～12時
- ・講師：東京大学大学院 総合文化研究所
教授 深代 千之 氏
- ・講演内容：科学で見直す！ スポーツ動作
(体の動かし方の理論的なコツなどについての講演)
- ・参加者：101名

○トークショー

- ・開催日：平成26年10月19日11時30分～
- ・講師：東京ヤクルトスワローズ投手 館山昌平 氏
- ・トークショー内容：
「プロ野球×テクノロジー」という観点から野球道具の進化、トレーニング、データ、食事などについてのトークショー及び会場内参加者からの質疑応答を実施。
- ・参加者：119名

○特別工作教室

- ・開催日：平成26年10月18日、19日
- ・実施内容：簡単な「カラオケスピーカー」の工作教室を実施。
- ・参加者：18名

○共育フェスティバル

港区の「赤坂・青山こども中高生共育事業」に参加し、東京ミッドタウンに隣接する檜町公園において、顕微鏡でさまざまな小さな生き物を観察するワークショップを行った。

(平成26年11月3日 参加者約100名)

(2) 平成27年度の展示準備

平成26年度の後半においては、先端技術動向等を踏まえた次年度展示内容の一部刷新のための検討・準備を行った。具体的には、ロボット技術などを重点的に取り上げることや、その他の既存展示技術の入れ替えを行うことを検討し、具体的な展示造作等準備作業を実施した。

また、次年度のリニューアルオープン後のPRイベントの企画検討を行い、以下のイベントの開催準備を行った。

・手塚真氏特別講演会

「アトムは本当に生まれるのか～手塚治虫が描いた未来」

・日本のからくり人形ショー！～ハイテク！江戸のロボット～

・クイズラリー

2. ハイテク情報サービス事業

(1) ビデオライブラリーの運営

平成26年度は、展示事業に関連する先端技術の新しい映像コンテンツの収集・上映を行う等、展示事業との一体的運用を推進し、先端技術に対する理解促進に役立つ映像情報発信をビデオライブラリーにおける上映とインターネット配信により実施した。ビデオ映像の収集については、公益社団法人映像文化製作者連盟等を通じ、新規に221作品を取

集した。

なお、インターネット配信は、スマートフォンやタブレット等でも簡単に視聴できるように、配信のビデオ映像を汎用的な形式に変換する作業を実施した。

【平成26年度ビデオライブラリー来場者数】	8,988名
【TEPIA館内来館者視聴作品アクセス数】	11,086回
【インターネット配信へのアクセス数】	11,420回

また、TEPIA館2階シアターを活用し、土日祝日の来館者向けに以下の上映会を実施した。

- ・夏休み上映会（7月13日～8月31日の土日祝日）
- ・秋冬上映会（11月18日～12月21日の土日祝日）
- ・初春上映会（1月14日～3月29日の土日祝日）

(2) TEPIA講演会の開催

わが国将来の重要課題であるエネルギーや先端技術等の分野に焦点をあて、それぞれの分野の第一人者や先駆者を招き、講演会を開催した。平成26年度は、以下のとおり2回開催し、一般の方や産業界の有識者など多数の参加があった。

①平成26年7月8日(火)開催

- ・講師：宇宙航空研究開発機構(JAXA)
宇宙科学研究所 教授 森田 泰弘 氏
- ・講演テーマ：イプシロンロケットの挑戦
- ・参加者：100名

②平成27年2月24日(火)開催

- ・講師：東京ガス株式会社 取締役副会長
内閣府 SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）
エネルギーキャリア プログラムディレクター
村木 茂 氏

- ・講演テーマ：水素社会の実現に向けて
- ・参加者：95名

3. 情報リテラシー事業

一般社会における情報機器・ネットワーク環境は、パソコン・従来型携帯電話からスマートフォン・タブレット端末へと急速に移行しつつあり、高齢者にとっても、これらの積極的な利活用が生活の質の維持・向上に欠かせない存在となってきている。このため、高齢者層でも簡単にスマートフォン・タブレット端末の利用方法を学べる環境を提供することを目的に、TEPIAの情報リテラシー事業として、平成25年度に高齢者層向けのスマートフォン・タブレット端末の入門講座を開始した。

平成26年度は、平成25年度の実施結果を踏まえ、カリキュラムの一部見直しを行うとともに、アプリ活用講座を新設し、高齢者層がスマートフォン・タブレット端末を一層便利に活用するための学習環境を提供した。また、受講者の機器取得状況、利用状況、機器・アプリ等に対する高齢者の要望等のアンケート調査等を実施し、より高齢者層のニーズに沿った講座への内容改善を行った。

なお、最近において、通信事業者のみならず自治体その他公共的セクターでもスマートフォン・タブレット端末の入門講座が実施されるようになってきており、TEPIAが先駆的に実施する意義が相対的に低下してきたため、同講座は平成26年度をもって終了した。

(1) 初心者向け入門講座

平成25年度に引き続き、高齢者層を対象とする初心者向けのスマートフォン・タブレット端末の入門講座を実施したが、平成26年度は、初めて触れるスマートフォンやタブレット端末のアプリ利用イメージを受講者が先に理解することで効率的な習得ができることから、講座の初回冒頭にアプリのデモンストレーションを行い、入門講座全体の理解度向上を図った。併せて、講座終了後、理解度・習得度等のアンケート調

査を行い、テキストや講義方法の改善等を図った。

【実施内容】

- ・スマートフォン講座(1コース：4回 定員8名)月4～5コース実施
(受講者数 390名)
- ・タブレット端末講座(1コース：4回 定員8名)月4～5コース実施
(受講者数 362名)
(iPad mini 講座に加え、新たに Android 版タブレット講座を実施。)

(2) アプリ活用講座

平成26年度は、6月から、スマートフォン・タブレット端末の基本操作を理解している高齢者層向けに、機器の利活用の促進を目的に、新たにSNS (twitter 等) 等のアプリを学習・実践する講座を実施した。

【実施内容】

- ・スマートフォン講座 (1コース：2回 定員8名) 月2コース実施
- ・タブレット端末講座 (1コース：2回 定員8名) 月2コース実施
(受講者数 計260名)

(3) 初心者向け入門講座の映像配信

TEPIAのスマートフォン・タブレット端末の入門講座の事業成果を広く普及するため、スマートフォンならではの機能、便利さを紹介したビデオ映像を制作し、TEPIAホームページ、YouTube への掲載や、ビデオライブラリーでの配信を実施し、TEPIAで受講できない高齢者層向けに広く情報発信した。

4. 調査・企画・広報事業

(1) 調査研究事業

産業界等において理工学系学生の基礎学力の低下が将来のわが国産業競争力に及ぼす影響が懸念されており、物理等の基礎学力の低い新入社員の再教育が産業界共通の課題となっている。これらを背景として、国際教育学会の協力を得て、理系人材教育・育成に関する基礎的調査研究を実施した。

また、わが国の今後の経済成長や国際競争力強化のためには、中小・中堅企業が持つ先端的な技術の発展による産業活性化が重要であり、このため、特に注目される優れた先端的技術を展示事業で紹介すること等を目的として、注目度の高い中小・中堅企業の最新技術動向等の調査等を実施した。

(2) 知的財産研究振興事業

平成26年度は、日本知財学会との協力により、平成25年度助成対象者2名の研究成果をTEPIA知的財産学術研究助成成果報告書として取りまとめ、今年度で本事業を終了した。

(3) 広報事業

TEPIA事業の広報活動として、TEPIAホームページ内に事業毎の専用ページを設定し、各々の事業活動のPR等のための情報更新を実施したほか、近隣自治体ホームページへの事業PR情報掲載を実施した。また、TEPIAの概要リーフレットの制作も実施した。

5. 表彰・助成事業等

特定非営利活動法人キッズデザイン協議会が毎年実施する「キッズデザイン賞表彰」（後援：経済産業省）において、TEPIA特別賞を設け、以下の表彰式において授与した。

表彰式：第8回キッズデザイン賞表彰

日時：平成26年8月4日13時～14時

開催場所：六本木ヒルズ49階「アカデミーヒルズ49」

TEPIA特別賞：(株)学研ステイフル『ワールドアイ』（表彰状授与）

6. TEPIA館施設の賃貸

TEPIA館施設（4階TEPIAホール、4階会議室、3階エキシビションホール、地下1階会議室及び駐車場等）の賃貸事業については、景気回復傾向を背景とする3階エキシビションホールの好調を主因に、前年度を上回る実績を確保した。会議室検索サイトやホームページの有効活用により認知度向上を図ったほか、顧客とのリレーション強化に努めた。

次年度においても、施設の補修の実施や2階レストランを活用した利用者獲得を図るほか、引き続き顧客ニーズに対応した積極的かつ弾力的な営業施策を講じ、一層の利用拡大を促進する。

以上

平成26年度事業報告書 附属明細書

平成26年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、作成しない。